

第16回埼玉県社会人サッカートーナメント会長杯 兼第30回彩の国カップ埼玉県サッカー選手権大会 大会要綱

1. 主 催 (公財) 埼玉県サッカー協会
2. 主 管 埼玉県社会人サッカー連盟
3. 協 賛 株式会社 モルテン
4. 期 日 令和7年 1月12日(日)～2月23日(日)
5. 会 場 熊谷スポーツ文化公園他
6. 参加資格 (公財)日本サッカー協会に加盟登録した第1種登録チーム(但しJ1リーグ、J2リーグ、JFL、大学連盟、自治体連盟、高専連盟に加盟したチームを除く)で、本年度、関東リーグ1部、2部、県リーグ1部、2部、1次予選の勝者16チームであること。また、次の資格を有するものに限る。
 - ①. チームエントリーは、30名までとする。但し、監督が選手として出場する場合はこれに含まれていなければならない。
 - ②. 外国人選手は1チーム5名までエントリーすることができ、また試合に同時に出場できるのは3名以内とする。なお、日本で義務教育を受けた選手1名を(公財)日本サッカー協会に申請し、外国籍扱いしない登録選手にすることができる。
 - ③. 外国籍の選手は就労または就学ビザ取得者に限り、(公財)日本サッカー協会に外国人登録を行った上登録できる。
 - ④. (公財)日本サッカー協会発行の選手証を必ず持参し、各会場大会本部で毎試合ごとに確認を受ける。
 - ⑤. 参加資格に疑義ある場合は、埼玉県社会人サッカー連盟がこれを裁定する。
 - ⑥. 参加申込書提出後の変更は一切認めない。
7. 競技上の規程 競技会規定：大会実施年度の(公財)日本サッカー協会規則による。但し、以下の項目については特に本大会用として大会規定を定める。
 - ①. 試合時間：90分(前・後半45分)
 - ②. ハーフタイムのインターバル：15分(前半終了から後半開始まで)
 - ③. 試合の勝者を決定する方法(90分で勝敗決しない場合)：決しない時はPK方式により決定する。なお準々決勝以降は20分(前・後半10分)の延長戦を実施し、なお決しない時はPK方式により決定する。
 - ・延長戦に入る前のインターバル：3分以内
 - ・PK方式に入る前のインターバル：1分以内
 - ④. 選手交替：メンバー表に記載された7名の交替選手の中から5名までの交替が認められる。
 - ⑤. テクニカルエリア：設置する。
 - ⑥. ベンチに入ることのできる数：13名(交代委員7名、役員6名)
 - ⑦. 負傷した競技者の負傷を確かめるために入場を許される役員の数：2名
 - ⑧. 退場を命じられた選手は、次の1試合に出場することができず、以後の処置については規律・フェアプレー委員会の裁定による。
 - ⑨. 大会期間中、警告が2回になった選手は次の1試合の出場を停止する。
 - ⑩. 装身具：一切の装身具の着用を禁止し、装身具を覆うテープの使用も不可とする

- 8. 大会形式** 勝抜き方式により決定する。
但し、以下の項目については特に本大会用として規定を定める。
①.チームが試合時間に遅れた場合は、いかなる理由があろうとも不戦敗扱いとする。
②.試合開始の最少人数は7名とする。但し途中の退場処分や負傷によるフィールドへの復帰不可能で競技者が7名未満となった場合、試合は中止され当該チームは不戦敗となる。
- 9. 審判** 1回戦のみ線審は帯同。その他は派遣とする。
- 10. 表彰** 優勝・準優勝のチームには表彰状と賞品を授与する。
- 11. 備考**
①.全国社会人大会関東予選
関東リーグを除くチームで、上位3チームに出場権を与える。
出場決定戦等が必要になった場合は、別途社会人サッカー連盟で協議する。
②.彩の国埼玉県サッカー選手権大会（社会人連盟参加枠1チーム）
会長杯上位1チームに出場権を与える。
- 12. ユニフォーム** 大会実施年度の（財）日本サッカー協会ユニフォーム規定及び埼玉県社会人サッカー連盟ユニフォーム規定による。
- 13. その他**
①.試合開始70分前にマネージャースミーティングを実施する。ただし、準決勝・決勝については、マッチコミッショナーを置き、マッチコーディネーションミーティングを実施する。メンバー表（4部提出）、選手証及びユニフォームのチェック、その他運営方法の確認等を行う。
②.主催者は、参加者の負傷、疾病の応急処置以外、一切の責任を負わない。なお、参加者は健康保険証を持参し、スポーツ傷害保険に加入していることが望ましい。
③.試合球は代表者会議で配布したもの1球。2球目は各チームで用意する。
④.各チームは必ず正・副（異色）2着のユニフォームを必ず持参すること。写真でも可とするが、審判から確認を求められた場合は持参すること。
⑤.GKは2名以上登録すること。ただし、2人目以上のGKについては、フィールドプレイヤーとの兼任でもよい。